能登半島地震以降の北陸地域における宿泊稼働指数

2024年2月7日

富山国際大学　大谷友男研究室
公益財団法人 九州経済調査協会　事業開発部

今回の発表について

- 2024年1月1日に発生した能登半島地震は、今なお懸命な復旧作業が行われている。
- 観光に関しては、地震後に宿泊予約のキャンセルが相次ぐ※など、風評被害への懸念が叫ばれ、政府は3月からの「北陸応援割」の実施を固めた。

  ※ 北陸４県で約17万件のキャンセル（2024年1月27日、岸田首相会見）

- 一方で、復旧関係者やマスコミなどが金沢などに多く宿泊しているとの報道※もある

  ※ 「観光客消えても「満室」金沢のホテルに自衛隊、電力会社など」
  2024年1月12日北國新聞

- そのような中、能登半島地震から約１か月間の北陸の宿泊施設の稼働状況が実際にどうだったかをビッグデータを用いて明らかにする。

宿泊稼働指数について

- 全国のホテル・旅館における日次の空室水準を宿泊予約サイトのビッグデータをもとに指数化したもので、**前日までの実績**が取れることが特徴。
- 観光庁「宿泊旅行統計調査（速報）」では、稼働率が公表されているが、県別データは各月末に前々月の結果が発表されており、**２か月のタイムラグ**がある。
- 原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく（算出方法等は次ページに記載）。
- 観光庁が公表している客室稼働率の結果とほぼ連動しており、速報性の高い数値として活用可能。
- 直近のデータを追うことができることから、政府の「**月例経済報告等に関する関係閣僚会議**」の資料にも活用されるなど（2021年2月ほか）、最新の景気動向を分析するデータとして活用されている。

宿泊稼働指数の算出方法

■日次（原数値）

100 － { (当日の空室数 － 当日を含む過去730日の最小空室数)÷(当日を含む過去730日の最大空室数 － 当日を含む過去730日の最小空室数) ×100 }

※ 最小空室数が0、最大空室数が150、当日空室数が40の場合、数値を代入すると以下のようになる。

100－ {（40－0）÷（150－0）×100}
＝100－（40÷150×100）
＝100－26.7
＝73.3

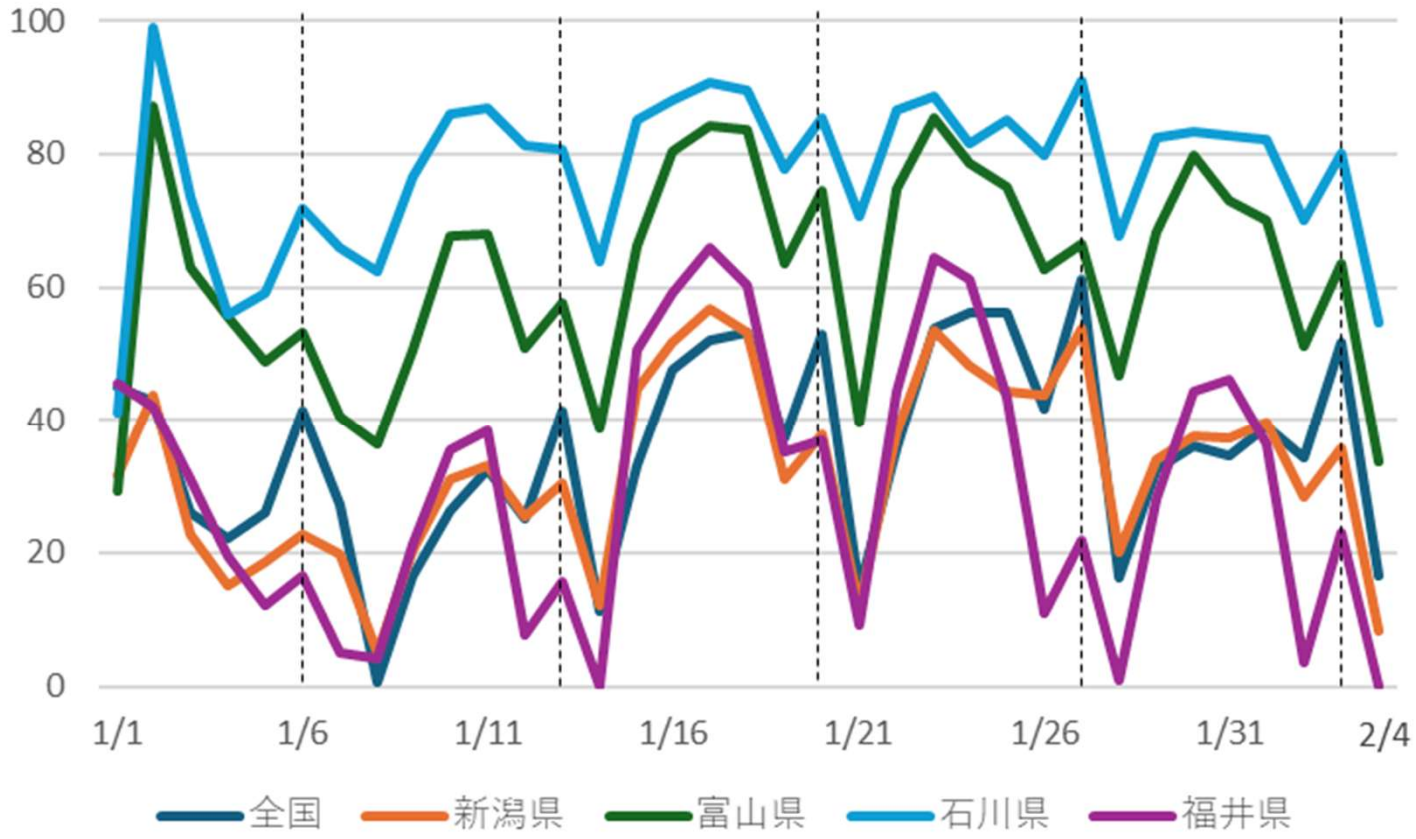
※ 当該地域において、宿泊施設が過去365日以上連続して立地・稼働していると判定される場合に限り算出

北陸地域全体の傾向

地震後の富山・石川は高稼働だが

- 地震後（1月以降）の宿泊稼働指数は、地震直後の上旬は下落するが、中旬以降は回復。
- 富山県と石川県は、全国よりもかなり高水準で推移。
- 一方、新潟県と福井県は週末の指数が全国を下回る。

能登半島地震後（2024年1月～）の北陸地域の宿泊稼働指数

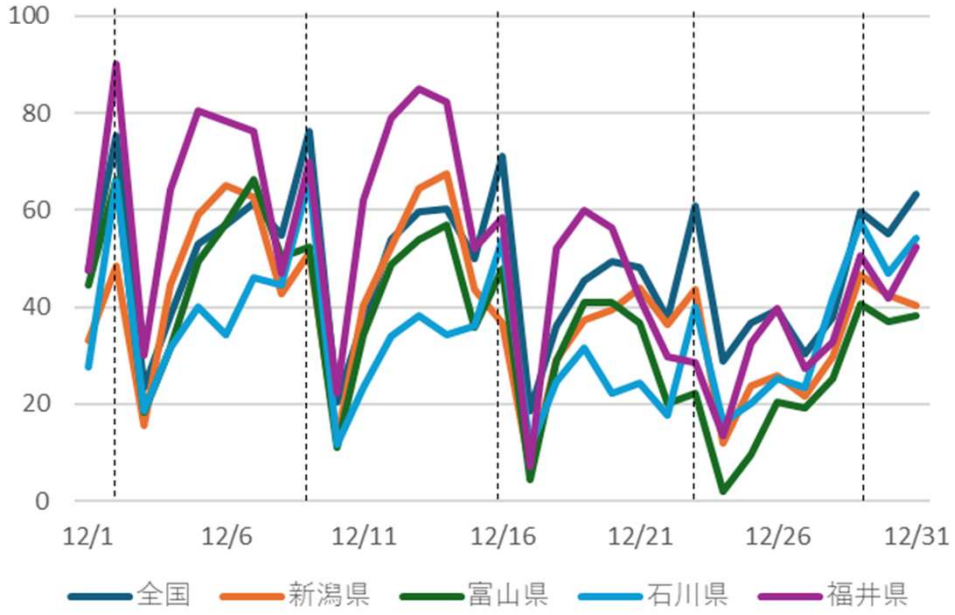


注）グラフ中の点線は土曜日（以下同様）

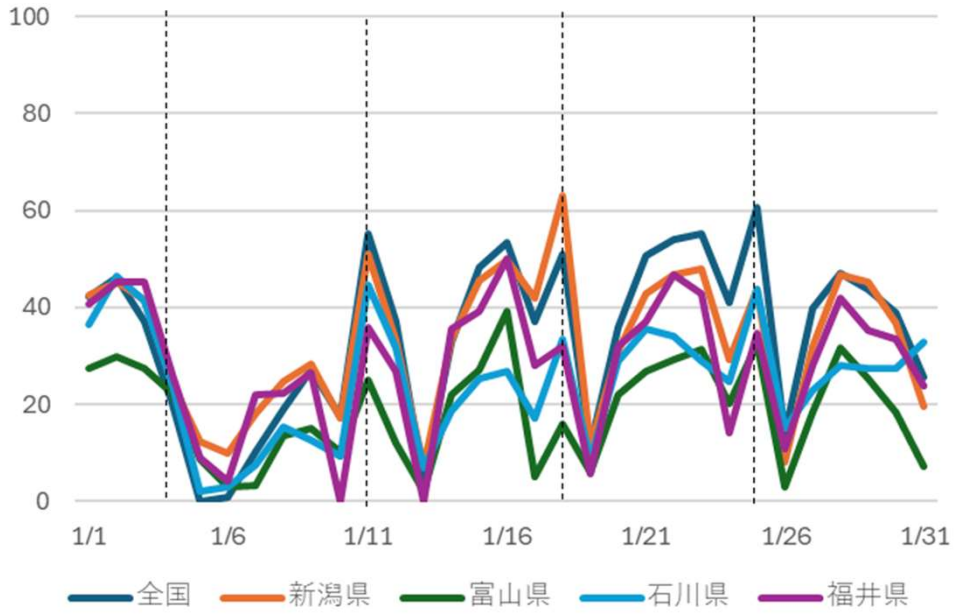
地震前、コロナ前の同月とも全国を下回る

- 地震前（2023年12月）、コロナ前の同月（2020年1月）の宿泊稼働指数は、北陸４県は総じて全国より低い水準で推移。
- 冬の北陸はオフシーズンであり、通常はこのような傾向といえる。

能登半島地震前（2023年12月）の北陸地域の宿泊稼働指数



コロナ前の同月（2020年1月）の北陸地域の宿泊稼働指数



観光客の減を上回る復旧関係者等の需要

- 富山・石川の高稼働は、一部施設の営業休止の影響で供給が減ったこともあるが、復旧関係者、マスコミ、二次避難者の宿泊需要（長期滞在も多い）が、観光客のマイナス以上だったためと考えられる。

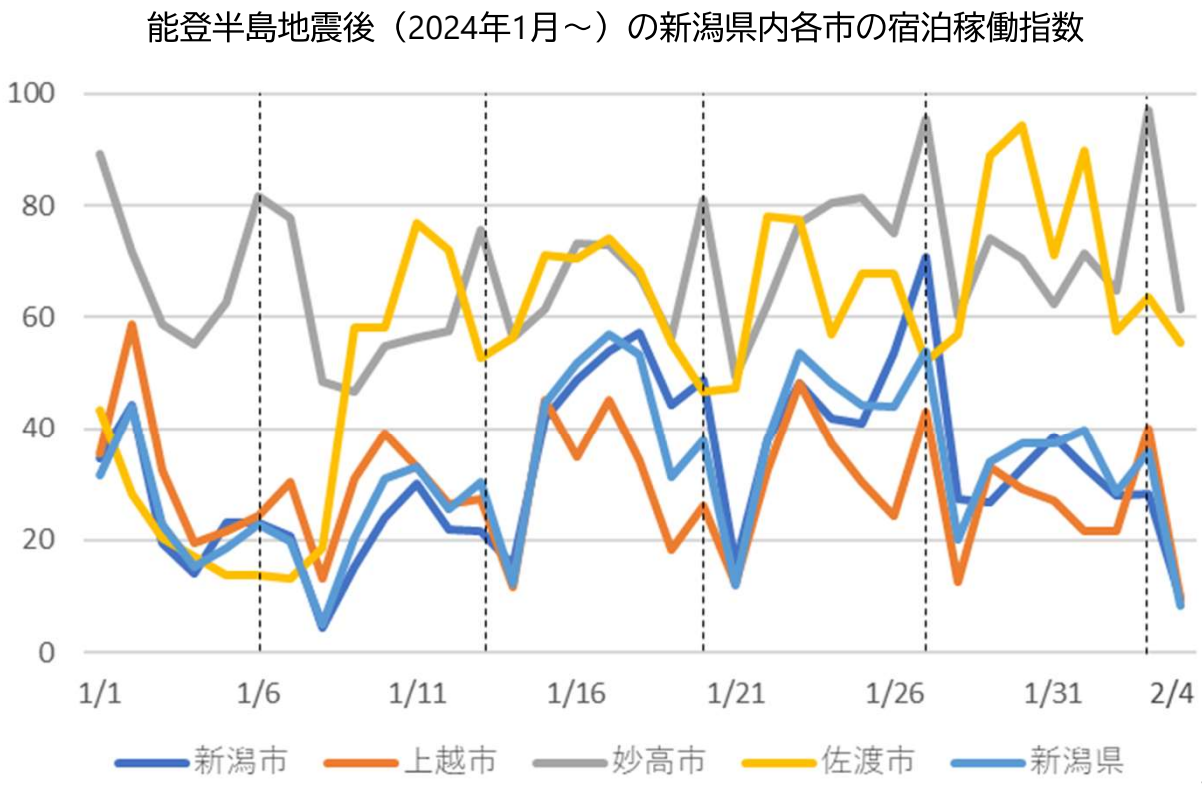
- 新潟県と福井県の週末の低稼働は、観光客の減少が影響したためと考えられる。ただし、１月中旬以降は緩やかに回復する傾向が認められる。

- 地震前（2023年12月）やコロナ前の同月（2020年1月）は、全国よりも低い水準で推移している。これは冬がオフシーズンとなる北陸の特性といえる。

県別・主要都市の傾向

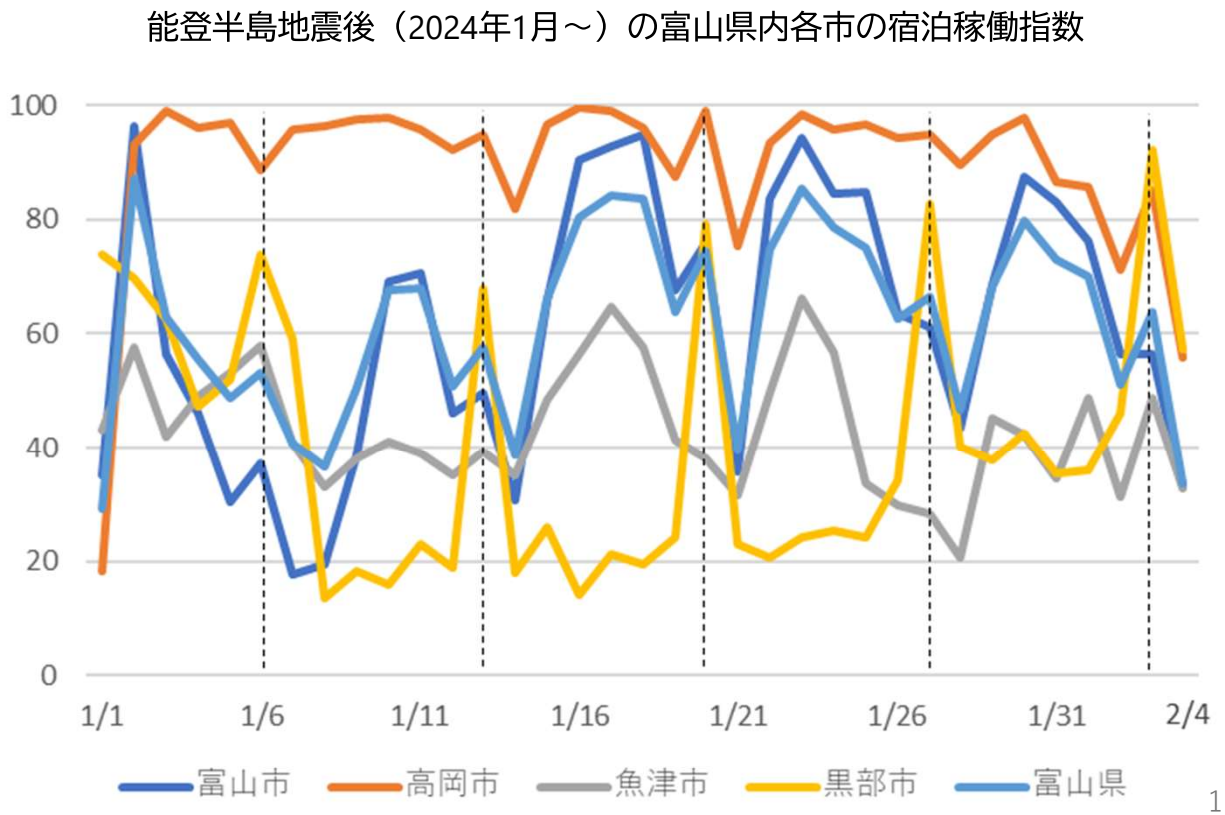
新潟県は福井県と同様の傾向

- １月上旬の宿泊稼働指数は、新潟、上越、佐渡は低水準であり、福井県と同様の傾向。
- 妙高はスキーシーズンのため高水準で推移。山間部で能登半島から遠いイメージがあるからか、マイナスの影響は小さかった。
- 佐渡は中旬以降回復。新潟、上越も低水準ではあるが、緩やかに回復する傾向。



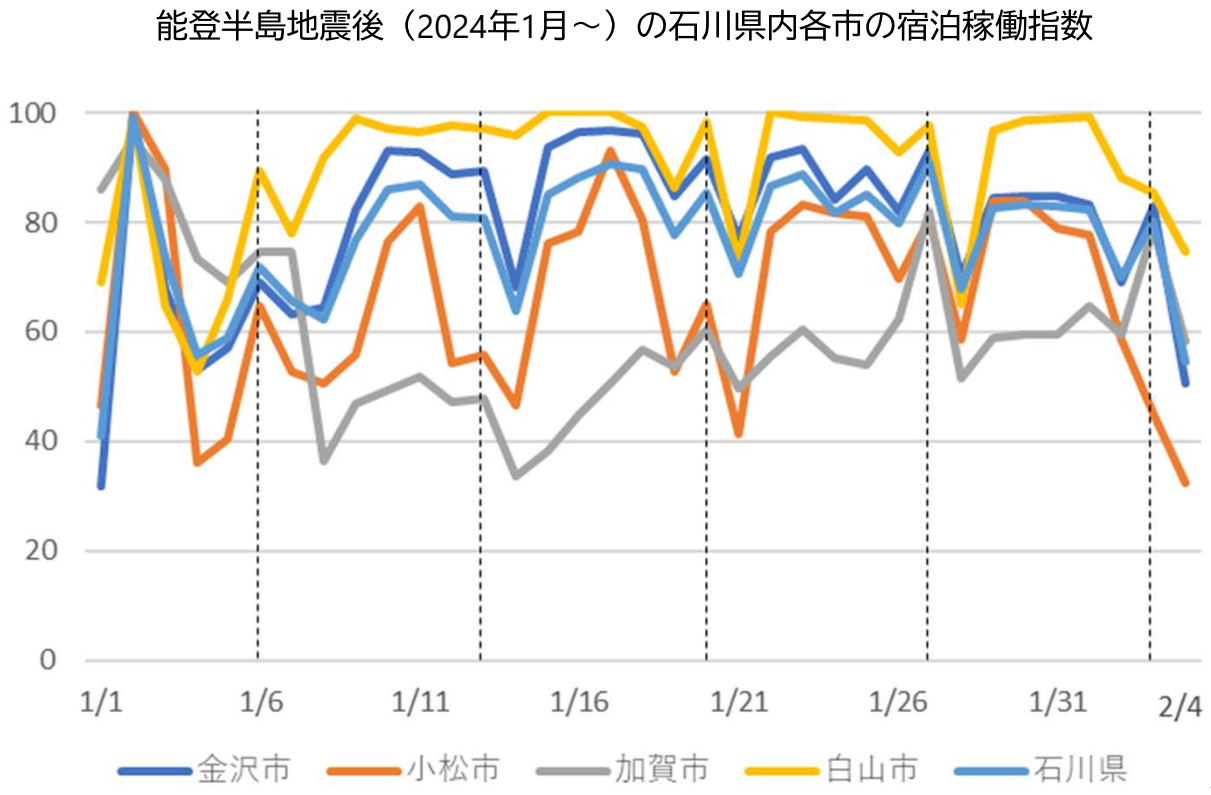
復旧関係者の需要が富山市まで及ぶ

- 高岡の地震後の宿泊稼働指数は高水準で推移。富山も中旬以降は高水準。魚津や黒部は低水準で推移も、黒部の週末は徐々に回復。
- 能登半島に近い高岡は、能登支援の拠点となっていることや市内の主要ホテルが被災したため、金沢以上の高水準。
- 富山の中旬以降の上昇は、金沢や高岡に入りきれなかった復旧関係者の宿泊需要が及んだためと思われる。
- 魚津や黒部にはその需要は流れていない。



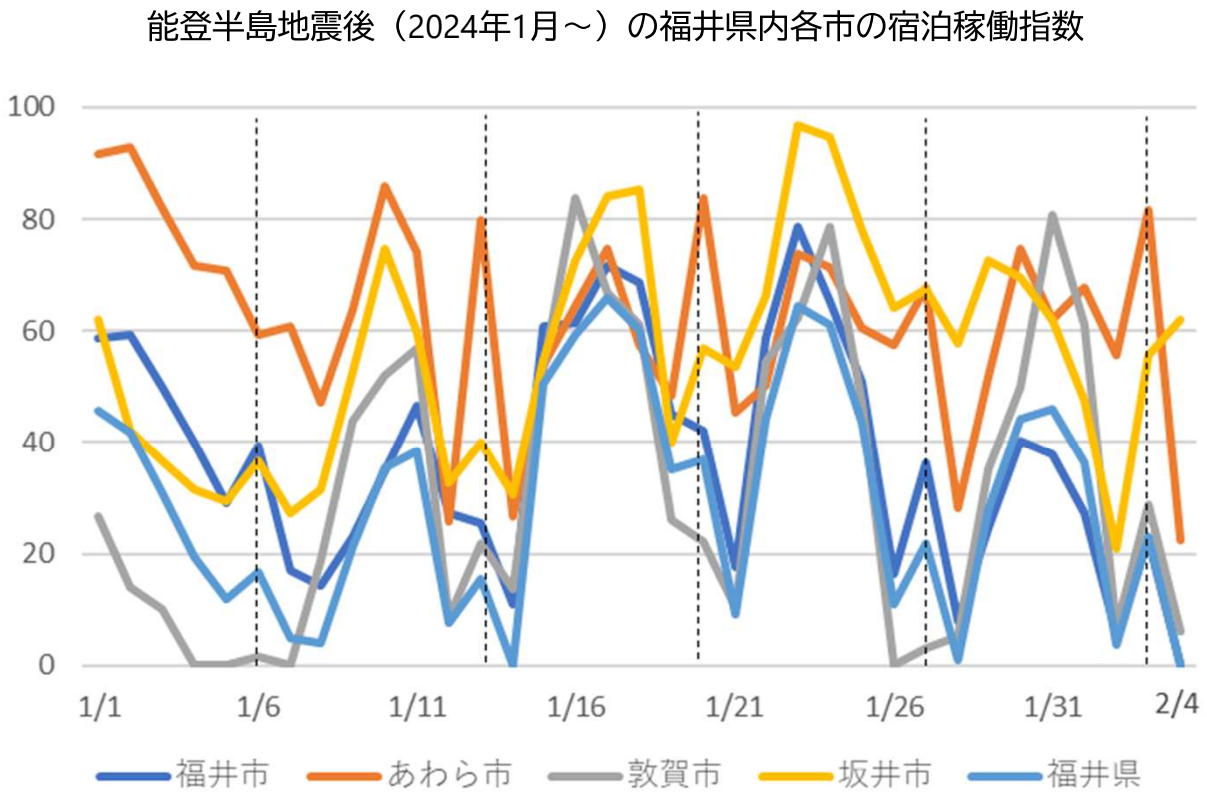
金沢近郊は高稼働に対し、加賀市は低水準

- 金沢や白山、小松の地震後の宿泊稼働指数は、１月中旬以降、高水準で推移しているのに対し、加賀は低水準で推移。
- 加賀は、観光型の宿泊施設が主体で被災地から遠いため、観光客減の影響が出ている。
- 能登は、営業できないため稼働指数は出ない。今後、徐々に営業再開しても、少ない供給に対し、復旧関係者の需要が大きく、当面は高い値で推移すると考えられる。



1月上旬の落ち込みが顕著な福井県

- １月上旬の宿泊稼働指数は、各市とも低水準で推移。
- なかでも成人の日の連休だった1月6・7日の数値が低く、地震による旅行控えがあったと推察。
- 福井県内では復旧関係者の宿泊需要はほとんど見込めないためか、各市とも宿泊稼働指数は低水準で推移。



2020/24年1月の宿泊稼働指数比較
（県別、平日・土休日別）

新潟県は土休日でポイントが低下

- 宿泊稼働指数が低いのは、季節要因（冬の北陸はオフシーズン）も考えられることから、コロナ前の同月（2020年1月）と比較。

- 2024年の宿泊稼働指数は、土休日で2020年よりポイントが低い傾向があり、観光客が減少している可能性。
- 上越市は平日、土休日ともにポイントが低下。

		平日			土休日		
		2020年	2024年	ポイント差	2020年	2024年	ポイント差
全国		35.7	37.8	2.1	31.6	31.7	0.1
新潟県		34.1	37.8	3.7	32.1	26.0	▲6.1
	新潟市	36.9	36.6	▲0.3	34.8	28.8	▲6.0
	上越市	51.2	32.1	▲19.1	29.4	27.2	▲2.2
	妙高市	47.0	65.7	18.7	65.1	70.5	5.4
	佐渡市	23.7	65.2	41.5	33.1	37.4	4.3

富山県は被災地支援需要で指数が上昇

- 富山県の宿泊稼働指数は、黒部市の平日を除いて2020年＜2024年。
- 上昇幅は西高東低かつ平日＞土休日。
- 平日の伸びが大きいのに対して、土休日の伸びがそこまで大きくないのは、被災地支援の需要が大きく、観光客の伸びによるものではないと考えられる（宇奈月温泉を抱える黒部市の伸び率は低い）。

	平日			土休日		
	2020年	2024年	ポイント差	2020年	2024年	ポイント差
全国	35.7	37.8	2.1	31.6	31.7	0.1
富山県	19.4	69.3	49.9	17.7	52.8	35.1
富山市	21.1	71.7	50.6	19.0	46.6	27.6
高岡市	27.5	95.4	67.9	21.0	85.6	64.6
魚津市	15.7	46.4	30.7	6.1	38.9	32.8
黒部市	29.2	27.7	▲1.5	46.5	55.4	8.9

被災地支援の需要は高いが、観光は低調な石川県

- 石川県の宿泊稼働指数は2020年と比較して大幅な上昇。特に平日の上昇幅が大きい。
- 加賀市は県内他都市に比べて低い値。指数の上昇幅も小さい。特に土休日は小幅で、観光客減の影響が伺える。
- 被災地支援の需要が高いものの、観光需要が低迷している可能性。

	平日			土休日		
	2020年	2024年	ポイント差	2020年	2024年	ポイント差
全国	35.7	37.8	2.1	31.6	31.7	0.1
石川県	22.5	81.5	59.0	27.8	72.8	45.0
金沢市	24.1	85.8	61.7	25.4	73.7	48.3
小松市	39.8	71.9	32.1	27.5	62.7	35.2
加賀市	36.8	55.2	18.3	60.8	65.0	4.2
白山市	32.6	93.5	60.9	16.1	84.9	68.8

土休日のポイント低下が目立つ福井県

- 地震の被害がそこまで大きくなかった福井県では、土休日の宿泊稼働指数がコロナ前と比較して低下傾向（福井市のみ若干上昇）。
- あわら市や坂井市では、平日は上昇しているが、土休日は10ポイント以上のマイナスであり、観光客が減少している可能性。（敦賀は客室数の増加の影響か？）

	平日			土休日		
	2020年	2024年	ポイント差	2020年	2024年	ポイント差
全国	35.7	37.8	2.1	31.6	31.7	0.1
福井県	29.7	39.4	9.7	26.1	19.1	▲7.0
福井市	31.3	46.4	15.1	24.8	31.6	6.8
敦賀市	67.1	45.3	▲21.8	26.3	12.3	▲14.0
あわら市	33.1	62.8	29.7	76.8	63.8	▲13.0
坂井市	59.0	64.3	5.3	60.2	45.3	▲14.9

結果のまとめ

- 能登（氷見市を含む）は、地震の影響で宿泊施設が営業を休止していることからデータを取ることはできず。

- **石川県や富山県では宿泊稼働指数は高水準**で推移。復旧関係者やマスコミ、二次避難者の利用によるものと思量。１月中旬以降は富山市や小松市、白山市などでも高水準となっており、これらの地域が能登の復旧・復興の拠点となっている様子が伺える。

- 一方、能登から遠方にある新潟県や福井県、石川県や富山県の中でも被災地から遠く温泉地を有する加賀市や黒部市では、土休日を中心に低水準で推移しており、**観光客の来訪が低迷**していると考えられる。実際、観光客は確実に減少している。（参考：「兼六園入園者数38%減 1月」2月3日北國新聞）

北陸応援割の効果を能登半島の復旧・復興に

- 能登…被害も大きく、復旧にはまだ時間がかかる

  宿泊施設が早期に復旧できたとしても、
  金沢や高岡などに流れている復旧関係者が流入

  ↓

  復旧優先であり、当面は観光という状況にない

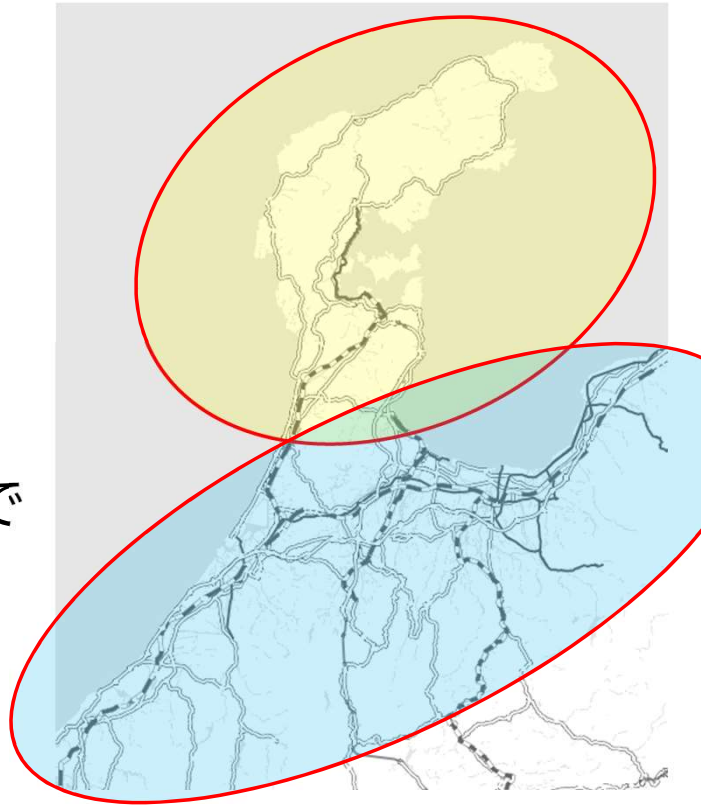
- 能登以外の北陸…被害は軽微、風評被害の懸念

  3月16日の北陸新幹線敦賀開業＋3・4月の北陸応援割で
  大きな追い風

  ↓

能登の復旧・復興につながるような観光振興に

例）宿泊施設や飲食店など観光客が訪れる場所での能登産品の積極利用
公的機関による能登産品を積極利用している施設や店舗の情報提供
旅行者側も能登産品を利用している施設や店舗を積極的に利用



お問い合わせ

富山国際大学　現代社会学部　観光専攻
准教授　大谷友男

TEL：076-483-8000（代）
E-mail：totani@tuins.ac.jp